



白鳳点描

「新型コロナウイルス感染症に打ち勝つために」

校長 川本 幸 則

今年度の登校日数が30日を切ってきました。今の学年で過ごすのもあと僅かになり、各学級ではまとめの学習が始まってきます。まだまだ寒い時期ですが、季節は春に移っていくのを感じます。

今年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症への対策を講じながら教育活動を進め、工夫をしながらここまでやってきました。しかし、感染力が強く、子どもにも感染していくオミクロン株の出現により、多くの子どもたちが直接的な影響を受けています。オミクロン株については、特性が次第に明らかになってきており、濃厚接触者等の待機期間がこれまでより短くなってはいますが、感染力が強いため、学校に入ってくると拡大が心配されます。子どもたちには、これまでと同じように基本的な感染対策をしっかりと行うよう伝えています。ご家庭におかれましても、今一度基本的な感染対策を確認いただくとともに、ご家族が風邪症状等で体調がすぐれないときには、お子様の登校を見合わせていただきますようお願いいたします。

感染症が猛威を振るっている中、病院等で対応に当たっていただいている医療従事者の皆さんに感謝を伝えたいと、児童会が提案し、「医療従事者へエールを送ろう」という活動を行いました。

子どもたち一人一人が作成した医療従事者の方に感謝の気持ちを伝えるカードを綴り、陶生病院と旭ろうさい病院に届けました。感染症対応で医療現場が大変なときにどのように届けたらよいかと思案しましたが、尾張旭市健康課を通して届けることができました。児童会役員の代表が担当教員の引率の元、健康課を訪れ、各病院へ届けていただく予定でしたが、陶生病院からは職員の方が健康課まで出向いていただき直接お渡しすることができました。また、旭ろうさい病院からも後日、丁寧なお礼のお言葉をいただきました。いずれの病院も丁寧に対応いただき、ありがたく思うと同時に、子どもたちの純粋な気持ちが、現場で奮闘している医療従事者の方のエネルギーになり得たことをうれしく思います。

この活動は、児童会役員選挙に立候補した子どもの公約を実現したもので、児童の代表委員会が全校に呼びかけて

